



No. 23

発行日：平成 27 年 02 月 23 日号

発行：郡山市立桃見台小学校

## 在校生に伝えたい卒業生の思い その1 「ぼく、私の残したい桃小のよい伝統だなと思うこと」

早いもので、卒業証書授与式は、1ヶ月後（3月23日）になりました。

在校生（1～5年生）がいっぱいお世話になった、頑張っている姿をたくさんたくさん見せてくれた、そして、みんなみんな大好きだった6年生が卒業します。

先日、その6年生が書いた、「ぼく、私の残したい桃小のよい伝統だなと思うこと」という作文を見せてもらいました。在校生や桃小への思いがたくさん詰まったすてきなメッセージでした。こんな思いを持ったすてきな6年生と一緒に生活してきたので、「楽しく充実した学校生活になったんだなあ。」としみじみ思っています。

在校生は、6年生の「思い」をしっかり受け止めていきたいと思います。その行為が連綿と続いてきたことが、桃小の「伝統」になるのだと思います。

6年生の皆さん。ありがとうございます。桃小で学んだことを大事にして、中学校でさらに大きくなってほしいと思います。



ぼくが残したいものは、あいさつと優しさです。今、桃小は、あいさつ日本一をめざしています。これはとてもいいことだと思います。だからこの伝統を残して、いつか本当のあいさつ日本一の学校になってほしいです。

そして、優しさは、前の6年生もみんな、優しい心を教えてくれたので、これからも残していき、みんな笑顔を絶やさない、そんな学校になってほしいからです。

# 伝統

みんなに受け継いでほしい伝統は、やっぱりあいさつです。集団登校の時に、先生にあいさつをしたり、学校で人とすれ違った時に礼をしたり、前の6年生もしていたことです。

あいさつをすることで、まわりの空気が変わって、桃小の空気も、もっと明るくなると思います。

私が残したいことは、だれかのためにできることを、せいいっぱいやることです。雪かきやボランティア清掃を残したいです。今、5・6年生は、学校みんなのために、ボランティア清掃を一生懸命にやっています。



私が残したいものは、思いやりのある心です。次に使う人が困らないように、きれいにしたり、ていねいにあつかったりすることが、これからの桃小の子もやってくれたら、すばらしい学校になると思ったからです。

給食が残らないことも思いやりだと思います。自分たちのために、毎日一生懸命に、たくさんの給食を作ってくれたことに感謝して、できるだけ残さないように、きれいな食べ物も少しは食べようとする所も、桃小の子どもたちが、給食を作ってくださる方たちのことを思っているからだと思います。

私は、この他の人のことを考えることを下学年に伝えて、伝統にしていきたいと思います。

